

研究課題名	周術期口腔機能管理が入院患者の誤嚥性肺炎の発症、および予後に与える効果についての多施設共同研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院
研究責任者	所属 特殊歯科・口腔外科 氏名 道脇幸博
研究期間	平成 26年10月 ～ 平成28年3月
研究の意義・目的	<p>平成24年から周術期口腔機能管理が健康保険制度に組み込まれた周術期口腔機能管理は、手術や放射線療法、化学療法などの医科医療の支持療法としての側面が研究レベルでは注目され、また誤嚥性肺炎発症リスクの低下、口内炎の発症頻度の低下や軽症化、等が報告されている。そこでそれらのことを臨床疫学的また医療経済学的に明らかにしておくことは患者の利益のみならず、医療費の抑制、病院経営への貢献、さらにはその社会的意義を知らしめることになり、将来の歯科医療の発展にもつながる。しかし、非常に多数の症例の集積が必要となるため、臨床疫学や医療経済の解析に耐える質と量のデータを単独の施設で集めることは困難である。</p> <p>そこで、近隣の病院歯科が集まって共同研究をすることを考えた。調査項目やその進捗状況などを随時意見交換することで、起こっている問題や障害の円滑な解決を図り、新たな課題をも検討できる。個々の症例の背景因子は多様であることは容易に予想できるが、共通の基準で非常に多数の症例を集積すれば、ベースライン研究としての大枠では収束することが期待され、研究成果の信頼性と有用性が高まり、医療政策等への新たな提言も可能となると考えられる。</p>
研究の方法	<p>ベースライン研究として周術期口腔機能管理料の保険収載前の平成22年4月～平成24年3月までの2年間と保険収載後の平成24年4月～平成26年3月まで約2年間のカルテを後方視的に各医療機関で調査をおこなう。</p> <p>具体的には、入院後に肺炎の診断が追加された患者とその診断がつかなかった患者とに分け、それぞれの原疾患とその治療内容、入院後の併発症や、肺炎の診断理由、肺炎の原因等を調査し、また入院期間やそれにかけた医療費、さらに退院後のADLや転院・退院後の経過などの項目を調べる。</p>
個人情報の取扱い	<p>結果の処理は、パスワードでアクセスが管理されたコンピュータで行い、データの流出には十分注意します。 研究結果は学会等で公表しますが、公表されるのは個人データではなく、集団として統計処理された値です。そのため個人が特定される危惧は予測できず、また個人を特定できる情報を公表することはありません。</p>
お問い合わせ	<p>当研究に自分の情報を使用してほしくない場合等のお問い合わせ</p> <p>〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 特殊歯科・口腔外科 氏名 道脇幸博</p> <p>TEL : 0422-32-3111 (代表) FAX : 0422-32-3525</p>